

海うさぎ

白木半島地区

コミュニティ協議会事務局

周防大島町大字沖家室島481番地

(旧沖家室小学校)

TEL 0820-78-0604

メール okikamuro-jimu

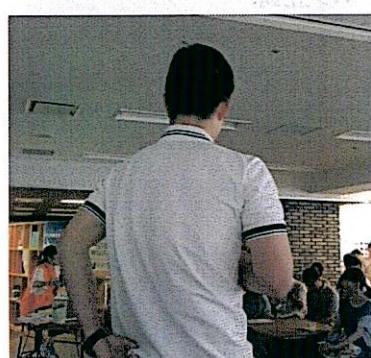
@sea.ion-tv.ne.jp

2018(平成30年)

8/10発行 季刊 夏号

移住相談会に行つてきました!

7月28日大阪、29日東京で開催された移住相談会に行つてきましたので、その状況について報告します。



上／大阪

右下／東京

左下・近々周防大島町への移住予定者

周防大島町では人口対策として、町外の人に町内に住んでもらう、移住対策に力を入れています。

今回の相談者は、定年退職を機に都会から田舎に移住を考えている夫婦、最近仕事を辞めて第2の人生のスタートを考える方、魚釣りが好きで漁師になりたい方、若いうちに地方に移住し、地域のために働きたいと考える方などでした。

私の役割は相談者からの質問に答えることです。また、周防大島町の素晴らしさを伝えると同時に、不便さなどもお伝えします。人を呼ぶのになぜ不便さを説明するのかと疑問に思われるかもしませんが、いいことばかり言つて移住いただいた方の田舎暮らしは長続きしません。「こんなはずではなかつた。」と考えてしまうと田舎暮らしは苦痛に変わります。あらかじめ正確な情報を伝えておけば、移住後の生活が円滑に進みます。

また、住むための家の紹介もしていますが、空き家はたくさんあるのに、貸してもらえる家はわずかしかありません。この白木半島に多くの方に移住してもらうために、空き家の発掘や、地域を訪れる移住希望者の方へアドバイスをしていただくなど、皆様のご協力をお願いします。

空き家をお貸しいただけませんか！

地域の将来計画「夢プラン」では、「移住者の希望を叶える」取組を進めしていくことを掲げており、白木半島地区に移住者を迎えるためには、先ずは、住まいの確保が不可欠となります。現に、「ここに住みたいけど、住む家が無いのであきらめた」という方も多くいらっしゃいます。

あなたやご親族が所有する空き家を移住者等の住まいとして、ぜひ、お貸しいただけませんか。お盆に帰省される方へもお声かけをお願いします。

◆連絡先：周防大島町 政策企画課 tel 0820-74-1007

Q1 なぜ町が空き家を探すの？

近年、放置された空き家が危険な状態となり、皆さんの日常生活を脅かす「危険空き家」が増えています。そこで町では、使えるうちに貸し出し、家賃収入を得る「空き家バンク」を推進しています。



Q2 だれに貸すの？

周防大島町は移住の島として注目されており、毎年、東京や広島等の大都市から多くの方が移住されています。

こうした移住者や町内在住で独立や結婚等により住まいを求めている方を対象に貸し出しを行います。



Q3 空き家バンクはどんな仕組み？

～空き家バンクの流れ～

- ① 所有者から周防大島町への申込み
- ② 町職員等による物件確認、家賃調整
- ③ 空き家バンクへの登録
- ④ 不動産業者と町による物件紹介
- ⑤ 不動産業者の仲介による契約
- ⑥ 引っ越し・入居

Q4 貸したいけど修理しないと・・・



町では、5年間の空き家バンクへの登録を条件に、家屋修理や家財処分の費用を助成しています。

- ・家屋修理：修理に要した費用の1／2（上限10万円）
- ・家財処分：処分に要した費用の全額（上限5万円）

Q5 貸したら返してもらえないくなるのでは・・・

貸し出しに当たっては、不動産業者を介して賃貸借契約を結びます。契約に基づいた入居となりますので、入居期間を定めたり、ペットはダメ！という条件を付すこともできます。



貸し出した家を返してもらえないということは、決してありません。

Q6 貸したらどんな良いことがあるの？

人が住むことにより風通しも良くなり、閉め切った状態に比べて家屋の老朽化を抑制することができます。また、家賃収入を得ることにより、固定資産税の支払いや家屋の維持管理費に充てることができます。



『安心安全応援隊』による有償助け合いサービス

住民同士が共に助け合いながら、温かく暮らしていくように、有償助け合いサービス実施に向けた準備を始めました。

既に皆様に対し会員を募りましたが改めてご紹介させていただきます。

1. サービスマニュ

- ①ゴミ出し（1回110円）·····ご自宅からゴミ集積場までのゴミの運搬
- ②ゴミ分別（1時間800円）·····ご自宅においてゴミを分別
- ③通常の家屋清掃（1時間800円）···ご自宅の清掃
- ④買い物代行（1時間800円）·····欲しい物を購入しあ届

※買い物代行については20円/kmの別途費用が必要です。



2. 会員登録数（H30年7月末現在）

- ①利用会員（サービスを利用したい人） 10人
- ②協力会員（サービスを提供したい人） 23人

5月と6月に自治会ごとに登録申し込みのチラシを配布しました。

回収の結果、協力会員の登録を数多くいただきました。

なお、利用会員・協力会員ともに随時登録受付中です！



3. 今後の予定

協力会員を対象に有償助け合いサービスの仕組みや心構えのほか、サービス提供にあたり注意点などについて説明会を行います。開催日時についてはあらためてご連絡します。

頼もしいエールの言葉に支えられて ~集落支援員 長谷川樹子~

白木半島地区コミュニティ協議会事務局には、住民の皆さんから毎日いろいろな意見が届きます。特に「有償たすけあいサービス」の立ち上げは皆さんの大好きな関心事です。賛成派、反対派、はたまた家のプロフェッショナル集団を立ち上げてはどうかと様々です。立ち上げとなると、意見の相違や不安はつきもので、そんな時にこんな言葉をかけて下さった方々がいます。

“今立ち上げておかないと10年先はむづかしい。将来を見据えて今やろう”

“たすけあいサービスは利用もしたいけど、時に応援隊になるよ”

おしゃべりの中から飛び出した頼もしい言葉が心に響きます。個別の要望やニーズの変化にしなやかに対応できるサービスの実現に向けて邁進していきたいと思います。

白木の津風

綺麗になつた佐連農道（地家室承兼線）

土砂が長年堆積し、路肩は木や草で覆われていた農道が、みんなの力を合わせて綺麗になつた！



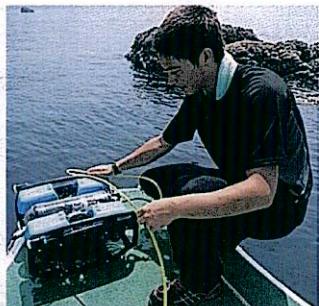
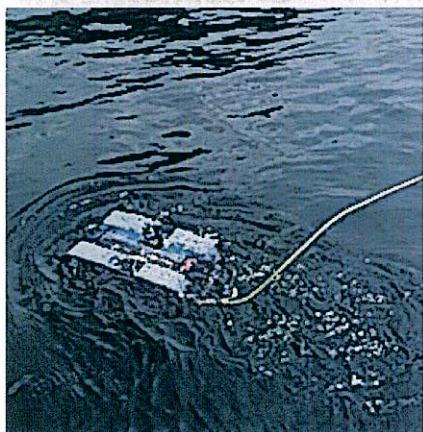
5月26日（土）、県庁中山間応援隊、町職員、周辺自治会、地元関係団体、佐連自治会の皆さん総勢31名が佐連会館前に集合しました。今回で3回目となる佐連農道の整備。エンソーや草刈機で草木を刈る地元住民、スコップで土砂を取り除く県庁応援隊、そし

て重機も操作して、効率よく整備作業が行われました。

佐連の山麓を東西に走るこの農道からは、沖家室大橋を眼下に素晴らしい景色を眺望することができます。また、この農道は台風による高波等で県道が通行止めとなつた場合には、避難道となる大変重要な道路です。

次回の整備作業で全線が綺麗になる予定です。

「水中ドローン」実証実験スタート！



第1回目（6月6日）の実証実験は、旧型の水中ドローンを使用し

たためか、操作が思うようにいきませんでした。第2回目（7月24日）は新たに購入した最新の水中ドローンで行い、船上に設置した大型モニターに水中ドローンが撮影したアワサンゴの映像を映し出すごとができました。

実証実験はあと3回程度行い、

操作技術を習得するとともに、水中ドローンが撮影した海中映像を多くの方に見ていただけるよう、映像の活用方法についても検討することにしています。

編集後記

8月になりましたが暑い日が続いております。先日、海に入りましたが、海水は冷たくはなくぬるかつたです。
熱中症はまだまだ油断なりません。適度にエアコンをつけ、水分を摂るなど十分に気をつけてください。（二）